

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 千川中 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
228	114	17	20

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策	
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価 概要	学校関係者 評価の意見		標 語
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3				
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い。		43	33	11	3	24	12	4	2	1	1	11	6	0	0	保護者、地域、教職員共に高評価となっている 一方、保護者からの回答では「わからない」が多い。家庭への便りを活用し、小中連 携の実践の紹介などを引き続き行っていく。	授業参観の見学の少なさから、関 心の低さが見える。さまざまな世 代にアプローチできる方法で情報 発信してみると良いのではない	B	令和6年度で小中連携での地域行事に参加した成果等を、情 報発信することで浸透する可能性がある。小学生の放課後に 実施となる防災ジュニアスタッフ訓練の見学を案内するな ど、小中の保護者にも紹介する工夫を行う。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。			29	58	11	4	12	9	8	1	1	1	8	9	0	0	校舎移転で、GIGAスクールとしての設備 充実により、ICT機器は教科の授業だけでは なく、学活、総合、道徳でも調べ、まと め、発表の活動に使用できている。授業改善 推進プランでは、ICTの活用を主として取り 組み、話し合い活動での効果的な活用方法 などを研究、実践した。	タブレットPCやプロジェクター など、校舎移転で使用する機会が 増えた。授業も工夫している。 土曜授業などで参観すると、生徒 が授業に積極的に参加している姿 を見ることができた。	A	ICTサポーターを有効活用して、全教員が個別に相談しな がら授業改善を行うことは定着した。充実した設備もフル活 用できているため、場に応じた使い方を工夫し、教育DXの さらなる推進を生徒の学習成果につなげていくことが今後の 課題である。 また、学習補充は今年度これまでの放課後学習教室に加え、 補習教室や個別対応も実施したが、効果的な方法をさらに 探っていく。
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用によ り、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。			36	53	8	7	10	11	6	1	1	1	10	7	0	0				
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくり を推進している。			36	53	7	1	17	9	8	1	0	2	6	8	2	1	担任だけが授業を行うのではなく、学年 の教員でローテーションを組み、授業を 行った。教員の道徳の授業力は向上して いるものと考えられる。 また、i-check等を活用して、生徒の変 化に対応できるようにした。	道徳の授業では意見を出し合っ ていた。タブレットPCもよく活用 していた。 生徒も保護者も多様化している が、学校は応じている。地域の関 わりも増えてきた。	A	チーム学校として、教職員や地域が生徒や保護者と関わる場 面を増やし、情報交換を密にしていく。 生徒の主体性が伸長されているため、互いを認め合う機会、 自他を大切にできる生徒を育成する。 道徳の授業は、タブレットPCで意見を交換するだけでな く、教材に応じた効果的な授業の展開を工夫する。
		III－2	学校は、生命を大切に作る態度や思いやり、優 しい心を育てている。			35	53	8	1	17	9	7	1	0	3	7	9	1	0				
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極 的に取り組んでいる。			28	57	16	4	9	7	8	2	1	2	6	11	0	0	献立の紹介をHPでの公開や、生徒の配 膳ワゴンにプリントを配布する活動を毎 日行っている。また、生徒の委員会活動 での給食準備短縮の取り組みや、養護教 諭からの保健便り、体力向上を目指した 昼休みの校庭や体育館の開放など、健康 教育に取り組んだ。	食育をよくやっている印象であ る。給食がある中学生の間に、睡眠 ・食事習慣を身につけ、卒業し て欲しい。歯科検診の結果、今年 は歯周病が多かったので、染液を 使った歯磨き指導を行うなど、そ の時々に合った健康教育を行って いて良いと思う。	A	生徒の委員会から発信する企画が多く、生徒作成のホーム ページ記事や校内掲示でも紹介したことが周知できている。 さらに保護者や地域の方にも様子が伝わるよう、発信の方法 を検討する。
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に 取り組んでいる。			31	50	12	8	13	8	10	0	0	2	8	8	1	0				
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早 期対応）に学校全体で組織的に対応している。			31	48	10	2	23	7	6	2	1	4	11	6	0	0	特別支援教室や個に応じた指導について、H Pや学校要覧に載せたり、保護者会で説明し たりするなどの取り組みを行った。	特別支援教室の取り組みについ て、HPで紹介してみてもどう か。教育センター等と連携して情 報発信してみるのも良い。不登校 の理由が多様多様になっている、 対応が難しくなっている。SSW やSCと連携した現在の対応を今 後も続けると共に、地域で見守り を続けていく。	A	「特別支援学級」ではなく、個別対応の「特別支援教室」の ため、紹介の方法には配慮が必要であるが、S-room便りの配 布を検討する。 各会議での情報共有から関係機関への連携や対応方法の検討 は効果があるため、引き続き実施する。
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。			40	58	5	2	9	7	10	1	0	2	12	5	0	0				
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。			30	25	5	4	50	8	8	0	0	4	11	6	0	0				
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生 活を送っている。			45	50	11	1	7	11	8	0	0	1	3	11	3	0	保護者や地域の方の意見や要望を受 け止め、学校改善に生かす項目につ いては「わからない」が多い。要望 にどのように対応したかを各種便り を通して発信していく。	学校運営連絡協議会で話し合っ ている様子を何らかの形で広報する ことで、「わからない」が多いとい う問題を解決できるのではない だろうか。教師と生徒との関わり はとても良いと感じる。	B	土曜授業が少なくなるため、防災教育や総合学習の発表など において、保護者や地域の方が参観できる機会を設ける。 コミュニティ・スクールへの転換で、地域へ情報を発信する 機会は多くなる。
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。			32	55	5	0	22	13	5	0	0	2	9	8	0	0				
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。			49	51	5	1	8	14	4	1	0	1	8	9	0	0	消防署・消防団・各町会の方と協力し て、防災Jrスタッフ、防災訓練での集 団下校などの活動を実施している。緊急 連絡カードを作成し、家庭との連携体制 も整備した。今後も継続していくとど に、地域・保護者への情報発信を行っ ていく。	防災Jrスタッフは、現在D級ボ ンプと、AEDを行っているが、 今後主流になるスタンドバイ訓 練を来年度実施する予定である。 地域の防災訓練に多くの中学生が 参加し、小学生と関わっている。 これからも参加して欲しい。	A	今年度は地域の方々に関わっていただく機会が増えた。ま た、生徒が積極的に地域行事に参加するようになった。生徒 と地域が直接関わることをめざすためには、生徒の発信力を 育成し、学校における参加者募集や報告についても教員を介 さずに行えることが目標である。
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。		42	57	2	1	12	10	9	0	0	1	9	7	1	0					
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、地域と連携した防災・安全への取り組み に関する教育を推進している。			40	54	6	0	14	14	4	1	0	1	13	3	0	1	1年生は保護者と協力したHUG、2年生は 区の防災危機管理課と連携した避難所設営訓 練、3年生は消防署と連携した普通救命講習 を行い、防災安全教育の推進に取り組んだ。	HUGの授業は、実践的な内容を ゲームにしている、とても良いと 思った。保護者にも声をかけ、防 災について家族で関心をもってほ しい。	A	3学年で実施することを定着する形は整った。コミュニティ スクールへの転換で、地域との連携による防災教育をさらに 確固たるものにしていく。保護者の関わりを増やすことがで きるとよい。
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学 校」を意識した業務分担等により、組織的に業務 の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。												2	7	7	1	組織的に業務の効率化、最適化を目指して いることについて否定的な回答が多かった。業 務分担を適切に行い、仕事の偏りが出ないよ う配慮する必要がある。		B	分掌の細分化や、業務分担を明確にすることで業務の効率化 を図る。 各自が自分の働き方改革について、ライフスタイルに応じた 工夫を示しているため、継続していく。	

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある